

## [講演要旨] 四国の防災風土資源について～地震・津波事例について～

松尾裕治(香川大学防災教育センター)・村上仁士(徳島大学名誉教授)

### § 1. はじめに

四国には、古来より災害に対峙した結果、災害の様子や対応を伝える石碑などの防災風土資源が多くある。これらの防災風土資源の中には、防災・減災の方策を知る上で極めて重要な知恵や教訓が多く含まれている。大規模な自然災害に対処するには、過去の各種災害の伝承資源(石碑や古文書等)を調査し、その背景を調べ潜在的な教訓を導き出すことが必要である。これらの防災風土資源について現地調査や文献を収集し、今日に活用できる防災の知恵や教訓をとりまとめることができれば、広くその結果を社会に公開すれば、地域の防災力向上に活かすことができる。そこで、筆者らは各種資料・論文、郷土史などを参考に四国全体の現地調査を実施して、現地にある碑やお寺、神社、地質構造などの位置をインターネット上で公開が可能な Google マップ上に示し、誰もが現地探訪ができるようにした。

本発表では、四国の防災風土資源としての地震・津波災害に関する代表的な資源から得られた防災の教訓について紹介する。

### § 2. 防災風土資源の調査概要

防災風土資源は、『土地がら(過去の長い災害の体験)から災害を未然に防ぐ目的をもって行われる(災害時の避難行動やふだんの備えにも生かされている)取り組みである』と定義し、調査したのは、四国の海岸部、平野部、山間部の災害伝承碑などのある集落や防災対策が行われた場所など地震・津波、水害、土砂災害、渇水に関する防災風土資源である。

文献調査や現地調査することができたのは、平成27年7月1日現在、4県で202箇所(図1)である。

そのうち地震・津波が91箇所と最も多くあった。東北地方には明治29年以前に建立された津波に関連する石碑が少ないが、四国には、江戸時代(宝永四年、安政元年)等に発生した南海地震津波に関連する石碑類が多数現存しており、貴重な防災風土資源が伝承されていることがわかった。

### § 3. 四国防災風土資源マップ(現地探訪用)の作成

現地を探訪できるように、現地にある碑やお寺、神社、地質構造等の防災風土資源の位置を前述の4災害別に分けて Google マップ上(図2)に示している。

その成果は「四国の代表的防災風土資源の紹介現地探訪用」として、四国防災共同教育センターのホームページで紹介している。この Google マップに掲載した身近な地震・津波の防災情報(史実)が、住民の心に響き、防災意識の向上や南海トラフ地震発生時の

行動に活かされることを期待したい。

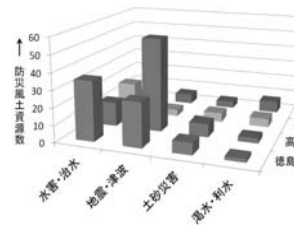


図1 防災風土資源の数



図2 Google マップ

### § 4. 地震・津波の防災風土資源の活用

太平洋に面する高知・徳島県の沿岸部には、津波災害伝承碑が多くある。山間部においても大規模な土砂災害が発生し、天然ダムができたことを記録した石碑などが現存している。津波災害伝承碑には、津波被害の様子や津波の大きさを示す印、一刻も早く避難することなど、被災の風化を案じ、二度と同じ被害を受けないようにと、後世への警鐘文などの教訓が刻まれている。

これら先人から受け継いだ防災風土資源を現地探訪し、得られる教訓を、今後の防災対策に活用していくことこそ肝要である。

### § 5. 大岩に刻まれた防災風土資源の教え

徳島県海陽町鞆浦には、高さ約3m、幅5.2mの大岩がある。その大岩には慶長と宝永の津波碑文(写真1)が刻まれている。慶長の碑文には、高さ10丈(30m)の津波で100余人の犠牲



写真1 大岩の津波碑文が出たこと、宝永津波で1丈(3m)の津波に見舞われたものの死者は1人も出していないことが刻まれ、共に後世の人に津波災害の教訓を伝えている。

### § 6. おわりに

先人は、史料や史蹟・石碑など多くの防災風土資源に災害の教訓を残してくれた。過去の様々な災害の様相を想像し、これを現在にあてはめることにより、いつか体験するにちがいない大災害への対応に活かすことができると信じている。多くの人々に Google 等の検索サイトで「防災風土資源」を検索し、四国の防災風土資源マップを活用いただき、四国の災害の歴史やその教訓を防災に活かすことを期待したいと思う。できれば、この地図を活用して実際に現地探訪されることを望みたい。